



34回生
剛 細矢
ほそや つよし

◆プロフィール
筑波大学生物学
類卒業。現在国立
科学博物館植物研
究部主任研究官。菌
類(カビ・酵母・菌
類)の市民権と向
この市民権を、研
究活動に
上させ、啓蒙活
動に
りくむ。

博物館に行こう！

突然ですが、クイズです。次のうちで、「菌類」はどれでしょう？ Aアオカビ、Bマツタケ、C大腸菌、Dゾウリムシ、E乳酸菌。なぜ、このようなことを聞くかというと、筆者は国立科学博物館で、菌類の研究をしているから。博物館といえば、ミイラだの、恐竜化石だの、ホルマリン漬けの動物だの、古くさい押し葉標本がショーケースにはいつて多数並べられた(ちようど高校の理科室のような)展示が思い浮かべられるかもしれない。そんな想像をされている方こそ、博物館に来ていただきたい。国立科学博物館だけでなく、関東一円の博物館も展示がバージョンアップされており、より魅力的な、大人の鑑賞にも堪える展示がなされている。しかし、展示にはしつかりとした基礎研究が必要だ。このため、多くの

博物館には研究を行う部門が存在し、私もその一員である。博物館もこれらの研究によって進化しているのだ。

菌類といえば、見映えも目立ちもしない、マイナーな生物と思われるかも知れないが、実は地球上で2番目に種数が多いと考えられ、動物・植物と肩を並べるほどの一大生物群なのだ。また、パンや味噌や酒も菌類の作用でできるわけだし、クスリの中にも菌類の代謝物を利用したものが多数あり、我々の生活の欠かせないパートナーなのである。また、最近の研究では、植物よりも系統上は我々動物に近い仲間であるということが分かっている。

そのような生物の世界を知ったきっかけは、高校時代にあったと思う。一年生の時に受けた辻三男先生の授業で、はじめて遺伝子やらDNAやらの存在を知った。また、複雑な生物現象が表や箇条書きで整理されていく授業

に感激した。さらに三年生の時、橋本健一先生の授業で、複雑なことが整理され、わかりやすく美しい図解で示されていくのに感動。特に、よく練られ、ユーモアを交えた橋本先生の講義は、とても印象深く、現在もお手本にしようと思っている。高校時代は、いろいろな興味あることをみつけるためにとっても貴重な時代であったと思う。また、そのような場を与えてくれた母校に深く感謝をしている。

現在、菌類を学ぶ時間は小中学校では皆無となり、高校でもよくて「アカパンカビ」が遺伝学の材料としてわずかに扱われる程度と聞く。環境問題や生物多様性が国際的に議論されている時代に、学校教育で生物そのものに触れる時間が減るのは残念なばかりでなく、問題だと思ふ。博物館は、それを補う社会教育の場としての機能も期待されている。今後も菌類の市民権の向上に努めようと思う。

さて、最初のクイズの答えだが、正解はAとB。残りはたとえ菌の字がついても菌類ではない。なぜ？と思つた人は、ぜひ科博にお越し下さい。